フロントサラウンドシステム

HTP-SB300

インターネットによるお客様登録のお願い

http://pioneer.jp/support/

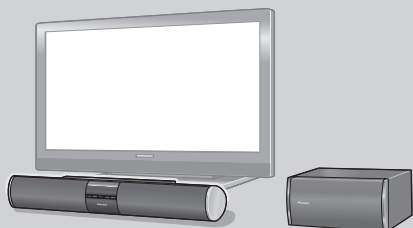
このたびは、パイオニア製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。上記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお、上記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

取扱説明書

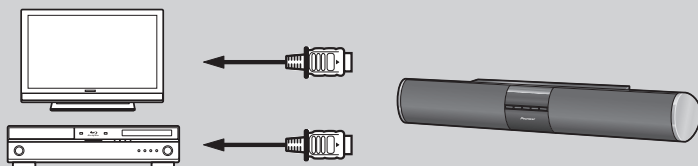
すぐに使いたい！

本機を以下の手順で設置・接続して、簡単に迫力あるサラウンドを楽しむことができます。

STEP 1

設置する →10ページ

■ 壁に掛けて使用する →12ページ

STEP 2

接続する →14ページ

迫力あるサラウンドをお楽しみください。

本機から音を出す →17ページ

リスニングモードを選択する →18ページ

シーンやお好みで選べる以下のリスニングモードが豊富に用意されています。

・サラウンドモード
・アドバンスドサラウンドモード
・フロントサラウンド･アドバンスモード

他にも、さまざまなサウンド機能の設定を行うことができます。→20ページ

さらに…

本機のリモコンで、一部のテレビやDVDプレーヤーなどを操作することができます。→22ページ

• ここでは、本機でサラウンド再生を楽しむまでの基本的な手順を示しています。ご使用の前に、本書を最後までよくお読みください。

故障かな?と思ったら…

電源が入らない、音が出ない、などでお困りのときは
→26ページ

もくじ

このたびは、パイオニア製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。本機の機能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくために、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」(34ページ)は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」は、「保証書」、「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

本書文中の商品名、技術名および会社名などは、当社や各社の商標または登録商標です。

準備

はじめに

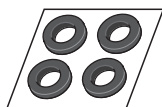
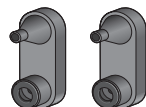
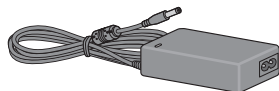
付属品を確認する

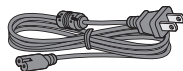
サブウーファー × 1

リモコン × 1

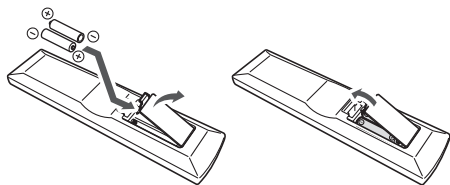
単４形乾電池 × 2

電源コード
（サブウーファー用）× 1

滑り止めパッド
（サブウーファー用）× 4

壁掛けブラケット
（本体用）× 2

AC アダプター × 1

電源コード
（AC アダプター用）× 1

壁掛け用台紙 × 1

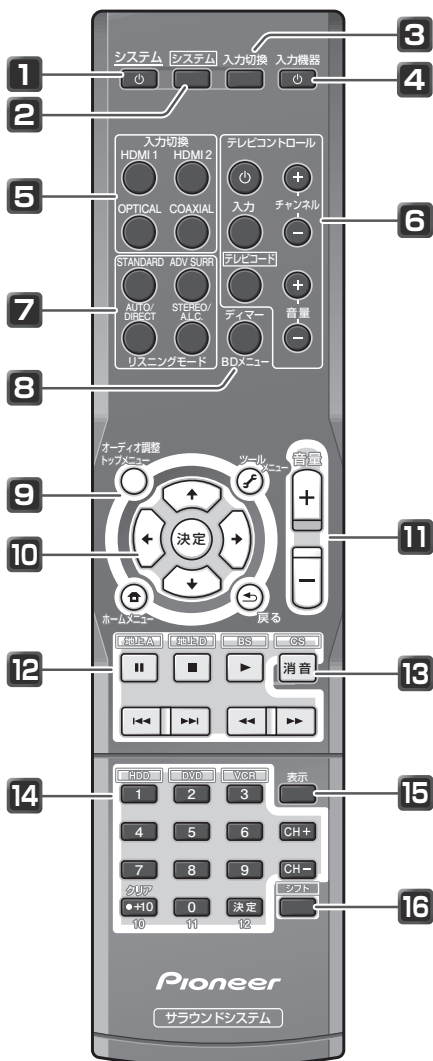
保証書
注意ラベル
取扱説明書（本書）

リモコンに電池を入れる

⚠警告

- 電池を直射日光の強いところや、炎天下の車内・ストーブの前などの高温の場所で使用・放置しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂、発火の原因になります。また、電池の性能や寿命が低下することがあります。

ご注意

- 乾電池のプラス (+) とマイナス (−) の向きを、電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池には同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間（1 か月以上）使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

各部の名前とはたらき

リモコン

* が付いているボタンは、入力切換ボタンで操作する機器を選択したときに使用できます。

1　⏻ システム
本機の電源をオン / オフ (スタンバイ) します。

2　システム
リモコンを本機の操作モードに切り換えます。システムセットアップなどを行うときに使用します。

3　入力切換
再生したい入力を選びます。

4　⏻ 入力機器
本機に接続した他機器の電源をオン / オフします。

5　入力切換ボタン
再生したい入力を選びます。リモコンが、選択したボタンに割り当てられた機器の操作モードに切り換わります。

6　テレビコントロールボタン
テレビが割り当てられた入力切換ボタンを押したあとに、テレビを操作します。

⏻
テレビの電源をオン / オフします。

入力
テレビの入力を切り換えます。

テレビコード
リモコンをテレビの操作モードに切り換えたり、テレビコントロールにプリセットコードを入力するときに使用します。

チャンネル ＋ / －
テレビのチャンネルを変更します。

(テレビ) 音量 ＋ / －
テレビの音量を調節します。

7　リスニングモードボタン

AUTO/DIRECT
オートサラウンド再生とダイレクト再生を切り換えます。（18、19 ページ）

STEREO/A.L.C.
ステレオ再生およびオートレベルコントロールモード、フロントサラウンド・アドバンス再生を切り換えます。（19 ページ）

STANDARD
サラウンドモードの Dolby Pro Logic などの各モードを切り換えます。（18 ページ）

ADV SURR
アドバンスドサラウンドモードを切り換えます。（18 ページ）

8 ディマー
フロントパネル表示部の明るさを 4 段階で切り換えます。

BD メニュー *
ブルーレイディスクプレーヤーのメニュー画面を表示します。

9 オーディオ調整
サラウンド効果の設定などを行います。（20 ページ）

トップメニュー *
ブルーレイディスクなどのトップメニューを表示します。

ツール *
ブルーレイディスクプレーヤーなどのツール画面を表示します。

メニュー *
DVD やテレビなどのメニュー画面を表示します。

ホームメニュー *
ホームメニュー画面を表示します。

戻る
本機のシステムセットアップや各種メニュー画面で 1 つ前の画面に戻ります。

10 ↑/↓/←/→/ 決定ボタン
本機のシステムセットアップ、または各種メニュー操作に使用します。

11 音量 ＋ / －
本機の音量を調節します。（17 ページ）

12 ⏸、■、▶、⏮/⏭、◀◀/▶▶ *
ブルーレイディスクや DVD などの操作をします。

以下のフラットテレビ操作はシフトを押しながら行います。

地上 A*
地上アナログ放送を選びます。

地上 D*
地上デジタル放送を選びます。

BS*
BS デジタル放送を選びます。

CS*
110 度 CS デジタル放送を選びます。

13 消音
音を一時的に消すときに使用します。もう一度押すと、元の音量に戻ります。

14 数字ボタン *
CD や DVD のトラック番号などを選択します。

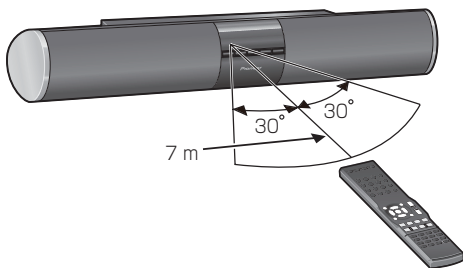
決定 *
入力したテレビのチャンネルなどを決定します。

HDD、DVD、VCR*
HD/DVD レコーダーやビデオデッキで、それぞれの操作を切り換えます。

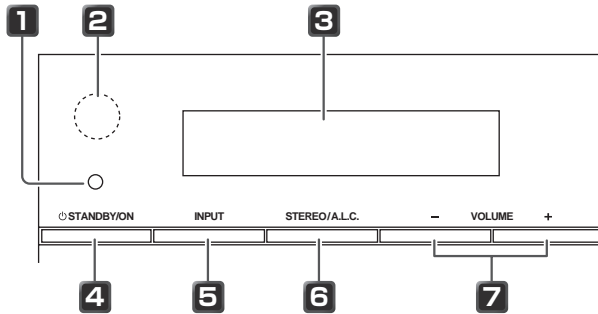
15 表示
本機の表示を切り換えます。押すたびに入力表示、リスニングモード表示、音量表示などが切り換わります。

16 シフト
四角で囲まれたボタン（たとえば 地上 D など）はシフトボタンを押しながら操作します。

リモコンの操作範囲

リモコンは、本機のリモコン受光部から約 7 m、左右 30° 以内の範囲から操作してください。

お知らせ

- 直射日光や蛍光灯の強い光が直接リモコン受光部に当たると、リモコン操作できないことがあります。そのようなときは、設置場所を変えるか、蛍光灯から離してください。

フロントパネル

1 ワイヤレスインジケーター
本機の状態によって、赤または緑色に点灯します。

- オフ（スタンバイ）のとき：赤く点灯します。
- 電源がオンで、サブウーファーと無線通信が行われていないとき：赤く点灯します。
- 電源がオンで、サブウーファーと無線通信が行われているとき：緑色に点灯します。

2 リモコン受光部（6 ページ）

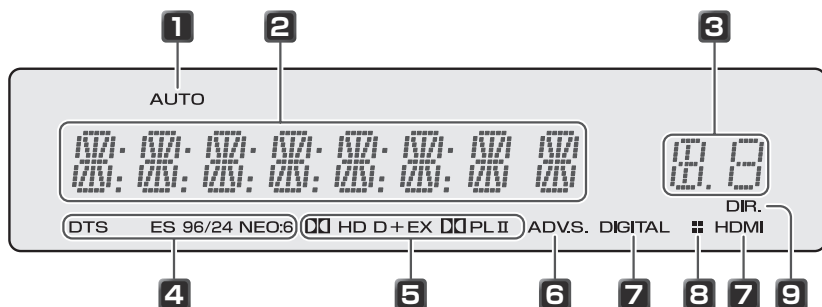
3 表示部（8 ページ）

4 ⏻ STANDBY/ON ボタン
電源をオン / オフ (スタンバイモード) します。

5 INPUT
入力を切り換えます。

6 STEREO/A.L.C.
ステレオ再生およびオートレベルコントロールモード、フロントサラウンド・アドバンス再生を切り換えます。（19 ページ）

7 VOLUME ＋ / −
音量を調節します。（17 ページ）

表示部

1 AUTO
オートサラウンドモード選択時に点灯します。（18 ページ）

2 キャラクター表示部

3 サウンドディレイインジケーター
オーディオ調整機能のサウンドディレイの設定を表示します（20 ページ）。

4 DTS インジケーター

DTS
DTS 信号が入力されているときに点灯します。

ES
DTS-ES デコードを行っているときに点灯します。

96/24
DTS 96/24 信号が入力されているときに点灯します。

NEO:6
リスニングモードで NEO:6 CINEMA または NEO:6 MUSIC のいずれかが選択されているときに点灯します。（18 ページ）

5 ドルビーデジタルインジケーター

DD D
ドルビーデジタル信号が入力されているときに点灯します。

DD D+
ドルビーデジタルプラス信号が入力されているときに点灯します。

DD HD
ドルビー TrueHD 信号が入力されているときに点灯します。

EX
ドルビーデジタルサラウンド EX デコードを行っているときに点灯します。

DDPLII
リスニングモードで、DOLBY PRO LOGIC のいずれかが選択されているときに点灯します。（18 ページ）

6 ADV.S.（アドバンスドサラウンド ）
アドバンスドサラウンドモードに設定されているときに点灯します。（18 ページ）

7　音声切換インジケーター

再生している機器の入力信号の種類が点灯します。

DIGITAL

デジタル音声信号を選択しているときに点灯します。選んだ入力にデジタル信号が入力されていないときは点滅します。

HDMI

HDMI 信号が入力されているときに点灯します。選んだ入力に HDMI 信号が入力されていないときは点滅します。

8　ディマーインジケーター

ディマーの設定でディスプレイ消灯を選んでいるときに点灯します。

9　ストリームダイレクトインジケーター

リスニングモードで DIRECT または PURE DIRECT モードが選択されているときに点灯します。（19 ページ）

製品の仕様により、本体部やリモコン（付属の場合）のスイッチを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらなく見える場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグ（遮断装置）に簡単に手が届くように設置し、旅行などで長期間ご使用にならないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

サブウーファー

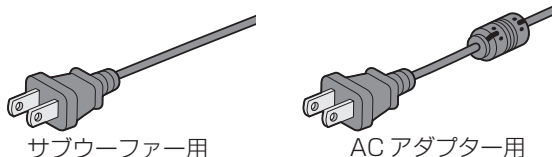
1　ワイヤレスインジケーター

- オフ（スタンバイ）のとき：赤く点灯します。
- サブウーファーが動作しているとき：緑色に点灯します。

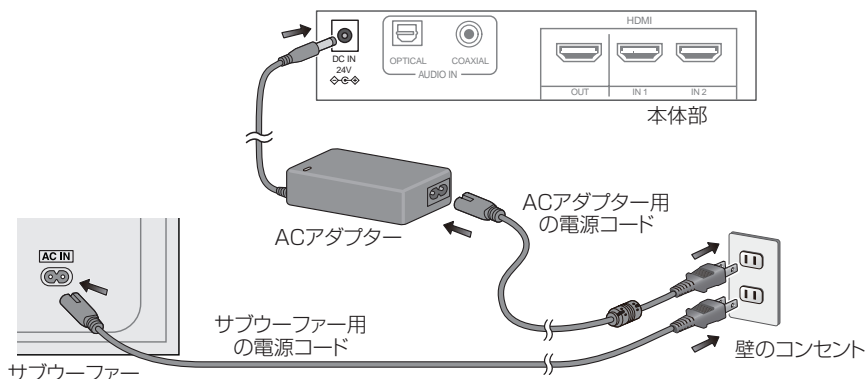
本機を設置する

設置の前に

本機の設置や接続を行う前に、本体部とサブウーファーが正しく無線通信が行われることを確認します。

- 電源コードは、下図のように、サブウーファー用と AC アダプター用で異なります。AC アダプター用にはフェライトコアが付いていますので、確認してから接続を行ってください。（AC アダプター用の電源コードは、AC アダプターと同じ箱に入っています。）

- 無線通信の確認を行うときは、本体部とサブウーファーは近くに置いてください。

1 **AC アダプターのコードを本体部の DC IN 端子に接続し、AC アダプター用の電源コードを AC アダプターの AC IN 端子と家庭用電源コンセント（AC 100 V）に接続する**

2 **サブウーファー用の電源コードをサブウーファーの AC IN 端子と家庭用電源コンセント（AC 100 V）に接続する**

3 **本体の ⏻ STANDBY/ON ボタンを押す**

本体部とサブウーファーのワイヤレスインジケーターが、両方とも緑色に点灯することを確認してください。

- 緑色に点灯しない場合は、ペアリングの操作を行ってください（11 ページ）。
- 確認が終わったら、すべての電源コードをコンセントから抜いてから、設置や接続を行ってください。

本体部とサブウーファーをペアリングする

1 システム ⏻ 本機の電源をオンにする

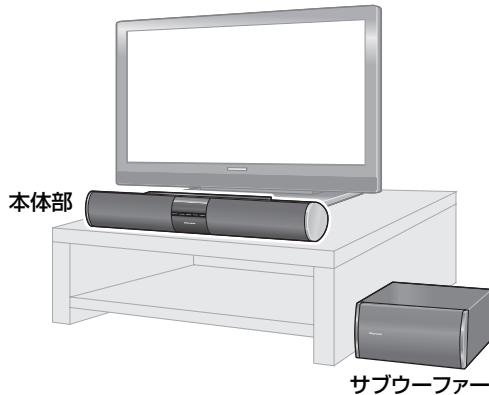
2 システム リモコンをシステム操作モードにする

3 本体の STEREO/A.L.C. ボタンを押しながら、リモコンの シフト とテレビコントロール チャンネル – を同時に押す

本体部とサブウーファーで無線通信が行われます。本体部およびサブウーファー部のワイヤレスインジケーターが緑色に点灯すれば、ペアリングは終了です。

本機の設置場所について

本機は本体部とサブウーファーだけで 3.1 チャンネルサラウンドが楽しめるシステムです。本体部はテレビの下に設置してください。

サブウーファーは本体部から無線で音声信号を受信するので、スピーカーコードを接続することなく、お部屋に自由に配置できます（電源コードの接続が必要です）。

ご注意

- 本機をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてケガの原因となることがあります。
- 本機のサブウーファーはテレビとの近接使用ができませんので、テレビから離してご使用ください。また、磁気の影響を受けやすい機器（フロッピーディスク、カセットテープ、ビデオテープなど）は本機のサブウーファーから離してお使いください。近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、相互作用によりテレビに色むらを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。
- 本体部はテレビとの近接使用が可能ですが、まれに設置のしかたによっては色むらを生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15 分～ 30 分後にふたたびスイッチを入れてください。その後も色むらが残るようでしたら、本機をテレビから離してご使用ください。
- サブウーファーは壁に掛けたり、天井に吊るしたりして使用しないでください。サブウーファーが落下してケガをしたり、スピーカーを破損したりする原因となります。

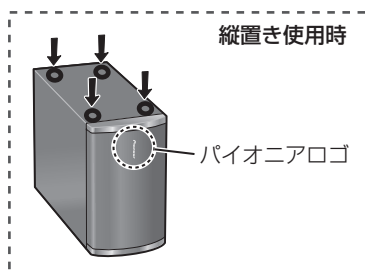
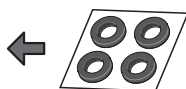
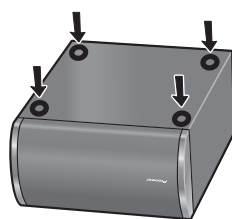
お知らせ

ワイヤレスサブウーファーの設置について

- 使用中に電波の状態によって、音がとぎれたり出なくなったりすることがありますが故障ではありません。本体部またはサブウーファーの位置や方向を変えてみてください。
- 本体部とサブウーファーの距離は約 10 m まで使用可能です。この距離は使用環境により異なりますので、10 mを保証するものではありません。
- 本体部とサブウーファーが近すぎると受信状態が不安定になる場合があります。このような場合には、本体部とサブウーファーを 1 m以上離してお使いください。
- 本体部とサブウーファーの間に障害物（金属製のドアやコンクリート壁、アルミ箔入りの断熱材など）があると、電波を遮ってしまい音が出なくなるときがあります。その場合は本体部とサブウーファーを互いに見通しの良い場所に設置してください。

サブウーファーに滑り止めパッドを貼る

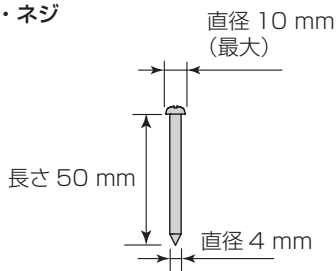
付属の滑り止めパッドを、サブウーファーの底面の四隅に貼り付けてください。

- 本機のサブウーファーは、通常は横置きで使用してください。縦置きで使用する場合は、左側面に滑り止めパッドを貼り付けてください。

本体部を壁に掛けて使う

本体部を壁に掛けて使用する場合は、以下のように取り付けてください。

本体部を壁に掛ける際は、壁掛け用ネジ（市販品）がしっかりと締まり、固定できる壁であることを確認してください。壁の材質や強度が弱いと本体部の重みに耐えられず、壁に掛けた本体部が落下する恐れがあります。

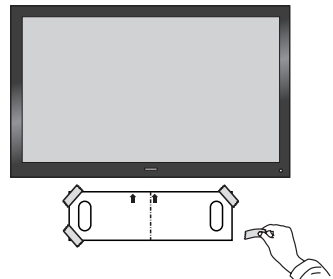
本機には、壁掛け用のネジやワッシャーを付属していません。

ネジは径が 4 mm・長さ 50 mm、ワッシャーは外形 10 mm のものをご使用ください。

ご注意

- 壁に取り付ける場合は、重量・取り付け方法によっては落下・転倒などの危険性があります。事故のないように十分注意してください。
- 設置・据付場所は重量に十分耐え得る強度を持つ場所を選んでください。強度などが不明の場合は、専門業者にご相談ください。
- 据え付け・取り付けの不備、誤使用、改造、天災などによる事故や損傷については、弊社では一切責任を負いません。
- 販売店や工事店に依頼し、安全性に十分考慮して確実な取り付けを行ってください。

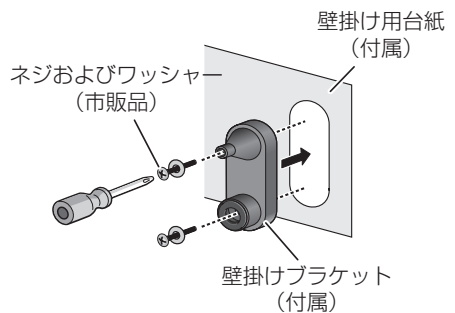
1 設置する壁面に、付属の壁掛け設置用台紙を貼り付ける

台紙をテープなどで水平に固定します。このとき台紙が傾いていると、本機をななめに固定してしまう恐れがありますので、よくご確認ください。

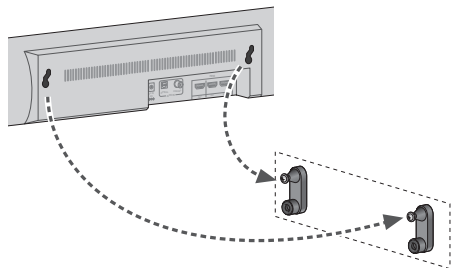
テレビに近付きすぎると、取り付けの際にぶつかって本機を固定できないことがあります。テレビと台紙が重ならないようにご注意ください。

2 ブラケットを台紙の指示位置に固定する

ブラケットを台紙の指示位置に合わせたら、ネジとワッシャー（市販品）を使用して、しっかりと固定します。

台紙とのずれがないように微調整をしてください。

- 左右のブラケットを固定したら、台紙を取り除いてください。

3 ブラケットに本体を乗せる

本体背面の左右の壁掛け穴に、ブラケットのネジの頭を入れて、本体を固定します。

- ネジの頭の部分が、壁掛け穴の一番上の部分に収まっていることを確認してください。

本機を接続する

接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源コードを抜いてください。また、電源コードはすべての接続が終わってから壁のコンセントに接続してください。

機器の接続を行う前に

- コードやケーブルを本機の上や近くに置かないよう注意してください。コードやケーブルが本機の上に置かれていると、本機の電源装置から磁場が生じて、スピーカーから雑音が発生することがあります。

接続コードについて

本機には接続コードは付属していません。接続には市販のケーブルをご使用ください。

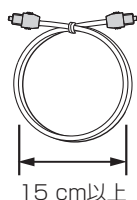
デジタル音声ケーブル

デジタル音声機器の接続に使用します。市販の同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルで接続します。

光デジタルケーブル

同軸デジタルケーブル

お知らせ

- 光デジタルケーブルは急な角度に折り曲げないでください。保管するときは、直径が 15 cm 以上になるようにしてください。

- 光デジタルケーブルは接続の際、端子の向きを合わせてしっかり奥まで差し込んでください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉まらなくなることがあります。
- 同軸デジタルケーブルは、一般的なビデオコードで代用できます。

HDMI ケーブル

デジタル信号でテレビや衛星チューナーと接続することができます。1 本で映像信号と音声信号の両方を伝送します。デジタル信号をアナログ変換しないため、鮮明で高品位な映像品質を楽しめます。

お知らせ

- HDMI によるデジタル音声伝送は、従来のデジタル音声伝送(光または同軸)に比べフォーマットの認識に時間がかかります。このため、音声フォーマットの切り換わりや再生スタート時に、音声がとぎれる場合があります。また、再生中に本機の HDMI OUT に接続している機器の電源をオン／オフしたり HDMI ケーブルを抜き差しすると、音声がとぎれたりノイズが発生する場合があります。
- 「オーディオ調整機能を使う」(20 ページ)の HDMI 設定で THRU を選択しているときは、HDMI 対応機器の音声はテレビ（フラットテレビなど）から出力されます（本機からは音声は出力されません)。
- 映像信号がテレビ（フラットテレビなど）の画面に表示されない場合は、HDMI 対応機器やテレビの解像度の設定を調整してみてください。なお、映像機器（テレビゲーム機など）によっては解像度の設定ができないことがあります。このときは HDMI ケーブル以外の方法で、映像機器とテレビを直接接続してください。
- HDMI の映像信号が、480i、480p、576i または 576p のときは、Multi Ch PCM 音声および HD 音声を受信することはできません。

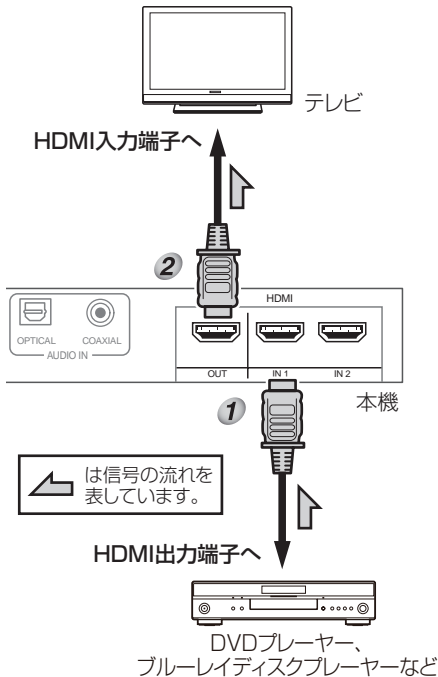
テレビと再生機器を接続する

HDMI で接続する

HDMI 入力端子のあるテレビと再生機器(DVD プレーヤーなど)を本機に接続します。

1 本機の HDMI IN1 端子と、HDMI 対応機器の HDMI 出力を接続する

接続には市販の HDMI ケーブルを使用します。

2 本機の HDMI OUT 端子と、HDMI 対応テレビの HDMI 入力を接続する

お知らせ

- 接続した機器に、HDMI 音声出力に関する設定がある場合があります。詳しくは、それぞれの再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- 再生機器と本機の間にテレビを接続すると、テレビの仕様により本機に音声が出力されない場合があります。この場合は、再生機器と本機を直接接続してください。

HDMI 以外で接続する

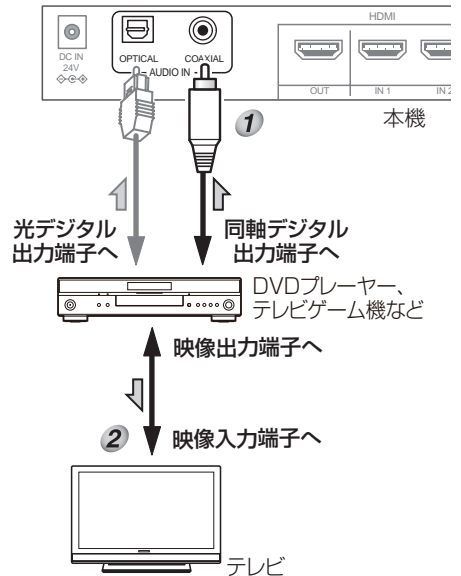
再生機器に HDMI 端子がない場合は、音声のみデジタルで本機に接続します。

- デジタル音声出力のない機器は、本機と接続することはできません。

1 本機の COAXIAL 端子と、再生機器の同軸デジタル音声出力を接続する

接続には市販の同軸デジタルケーブルを使用します。

- 市販の光デジタルケーブルを使用して、本機の OPTICAL 端子に接続することもできます。

2 再生機器の映像出力と、テレビの映像入力を接続する

お知らせ

- 接続した機器に、デジタル音声出力に関する設定がある場合があります。詳しくは、それぞれの再生機器の取扱説明書をご覧ください。

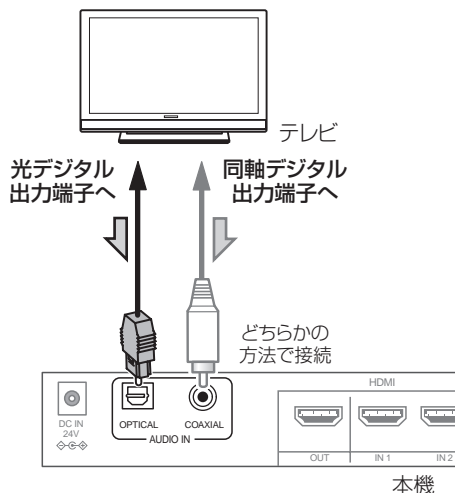
テレビを接続する（テレビの音声を本機で聴く）

テレビのチューナーから音声を楽しむには、テレビの音声を本機に入力します。

- **デジタル音声出力のないテレビは、本機と接続することはできません。**
- テレビと HDMI ケーブルで接続しても、本機からテレビの音声は出ません。以下のデジタル音声ケーブルによる接続を行ってください。

1 本機の OPTICAL 端子と、テレビの光デジタル音声出力を接続する

接続には市販の光デジタルケーブルを使用します。

- 市販の同軸デジタルケーブルを使用して、本機の COAXIAL 端子に接続することもできます。

お知らせ

- 接続したテレビに、デジタル音声出力に関する設定がある場合があります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

電源コードを接続する

すべての接続が終了したら、AC アダプターを本機と家庭用電源コンセント（AC 100 V）に接続し、また電源コードをサブウーファーに接続します。

詳しくは 10 ページをご覧ください。

ご注意

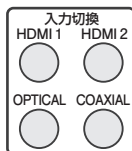
- 旅行などで長期間本機を使用しない場合は、必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。長期間、電源コードを抜いた状態でも、本機で設定した各種設定が消去されることはありません。

本機から音を出す

本機に接続した他機器の音声を聴くまでの手順です。

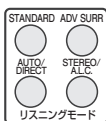
1 再生機器の電源をオンにする

2 システム ⏻ 本機の電源をオンにする

3 聴きたい入力を選ぶ

本機の入力が切り換わり、リモコンも入力に接続した機器の操作モードに切り換わります。（22 ページ）

- 入力切換 でも入力を選ぶことができます。この場合、操作モードは切り換わりません。

4 再生機器の再生を開始する

5 お好みのリスニングモードを選ぶ

6 音量を調節する

音量は、MIN（最小）～ MAX（最大）の範囲で操作できます。

- 一時的に音を消したいときは、消音 を押します。もう一度押すか、音量を調節すると解除します。

リスニングモードを選択する

オートサラウンドで再生する

AUTO SURROUNDモードは、本機のさまざまな音声再生モードのなかで最も簡単に最適な再生方式を選択します。再生している音声信号を本機が自動で検出して、マルチチャンネルやステレオなど最適な再生方法を選択します。

1 再生中に AUTO/DIRECT を押す

フロントパネル表示部にAUTO SURROUNDと表示されるまで、繰り返し押してください。次にこのモードが自動選択したデコード名称または音声フォーマット名称が表示されます。どのフォーマットが選ばれたかは、フロントパネルのデジタルフォーマットインジケーターを確認してください。（8ページ）

お知らせ

- ステレオ2チャンネルの（マトリックス）サラウンドフォーマットは、NEO:6 CINEMAまたはDOLBY PLII MOVIEでデコードされます（詳しくは「サラウンドで再生する」（下記）をご覧ください）。
- AUTO/DIRECTボタンでダイレクト再生機能も選択することができます。詳しくは、「ダイレクト再生機能を使う」（19ページ）をご覧ください。

サラウンドで再生する

本機は、すべての音声をサラウンド再生することができます。ただし、入力信号の種類によって選択できるサラウンド再生の種類は異なります。

1 再生中に STANDARD でモードを選ぶ

Dolby DigitalやDTS、ドルビーサラウンドなどのフォーマットで圧縮された信号については、適切なデコード形式が自動的に選ばれ、表示部に名称が表示されます。

ステレオ2チャンネル音声再生時

- DOLBY PLII MOVIE
  映画に適しています。
- DOLBY PLII MUSIC
  音楽に適しています。
- DOLBY PLII GAME
  ゲームに適しています。
- NEO:6 CINEMA
  映画に適しています。
- NEO:6 MUSIC
  音楽に適しています。
- DOLBY PRO LOGIC
  ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声に効果があります。

マルチチャンネル音声再生時

ストレートデコード再生を行います。

お知らせ

- DOLBY PLII MUSICモードでステレオ2チャンネル音声を聴いている場合、C.WIDTH、DIMEN.、PNRM.の3つの項目を調整できます。詳しくは「オーディオ調整機能を使う」（20ページ）をご覧ください。
- NEO:6 CINEMAまたはNEO:6 MUSICモードでステレオ2チャンネル音声を聴いている場合、C.IMGの項目を調整できます。詳しくは「オーディオ調整機能を使う」（20ページ）をご覧ください。

ADVANCED SURROUNDモードの効果を使う

音にさまざまなサラウンド効果を加えます。お好みに応じて以下のモードを選択します。

1 再生中に ADV SURR でモードを選ぶ

- ACTION
  アクション映画などをダイナミックに再生します。

- DRAMA
  映画などのセリフを明瞭に再生します。
- ENT. SHOW
  ミュージカルなどの音楽系ソースに適したモードです。
- ADVANCED GAME
  テレビゲームに適したモードです。
- SPORTS
  スポーツ番組に適したモードです。
- CLASSICAL
  大きなコンサートホールのような臨場感で再生します。
- ROCK/POP
  ロックやポップに適したモードで、ライブ会場のような臨場感で再生します。
- UNPLUGGED
  アコースティック音楽系ソースに適したモードです。
- EXT.STEREO
  ステレオ 2 チャンネル音声をマルチチャンネル音声にして、すべてのスピーカーを使って再生します。

ステレオで再生する

STEREO は、すべての信号を 2.1 チャンネルで再生します。Dolby Digital や DTS などのマルチチャンネル信号はステレオ音声にダウンミックスされます。

A.L.C.（オートレベルコントロール）は、ポータブルデジタルオーディオプレーヤーなどに録音された音楽ソースごとの音量差を、本機で自動的に均一にしてステレオ再生します。

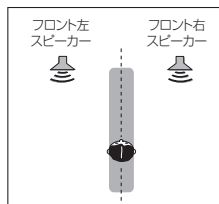
1 再生中に STEREO/A.L.C. でモードを選ぶ

- STEREO
  ミッドナイト／ラウドネス機能、サウンドレトリバー機能などが反映されたステレオ再生を行います。
- A.L.C.
  オートレベルコントロールモードで再生します。

フロントサラウンド・アドバンス機能を使う

フロントサラウンド・アドバンスモードは、左右のフロントスピーカーとサブウーファーだけで自然なサラウンド再生を行います。

1 再生中に STEREO/A.L.C. でモードを選ぶ

- F.S.S.ADVANCE
  臨場感のある自然なサラウンド効果が得られます。フロントスピーカーから等距離の直線上（前後は移動可能）で視聴してください。

ダイレクト再生機能を使う

ダイレクト再生機能を使用すると、入力信号を加工せずにソースに忠実な再生を行います。

1 再生中に AUTO/DIRECT でモードを選ぶ

- DIRECT
  デュアルモノラル音声の設定などを反映して再生します。入力信号が忠実に再生されます。
- PURE DIRECT
  PCM 信号をデジタル処理せずにそのまま再生します。

お知らせ

- DIRECT モードでは他にもサウンドディレイ、オートディレイ、LFE アッテネーター、センターイメージなどの機能も反映します。
- PURE DIRECT モードでは PCM 以外のソースを再生すると、再生直前にノイズが出ることがあります。この場合は DIRECT または AUTO SURROUND にすることをお勧めします。

サラウンド再生

オーディオ調整機能を使う

オーディオ調整機能でサラウンド効果の各種設定ができます。

1 システム を押してから オーディオ調整 トップメニュー を押す

2 で調整したい項目を選ぶ

各項目で調整できる内容は以下の表のとおりです。選択項目の初期値は太字で示しています。

3 必要に応じて、で設定を選ぶ

お知らせ

- 入力音声信号の種類や本機の設定の状態によっては、オーディオ調整機能が表示されない項目もあります。
- ※印が付いている項目には、設定の出現条件や制限などがあります。21 ページをご覧ください。

設定項目	内容	機能
S.DELAY （サウンドディレイ）	音声全体の遅延時間を調整します（DVD ソフトなどで、映像の動きの方がセリフなどの音声より遅れている場合、音声全体を遅らせることで、映像の動きと音声とを合わせることができます）。	0.0 ～ 9.0 フレーム（0.1 間隔）（1 フレーム＝ 1/30 秒（NTSC） 初期値：**0.0**
MIDNIGHT （ミッドナイト） LOUDNESS （ラウドネス）	ミッドナイト機能は、サラウンド音声の映画を小音量で見るときに効果的です。音量によってその効果は調整されます。 ラウドネス機能は、音楽を聴くときに小音量でも低域、高域のレベルを自然に調整して聴きやすくします。	**M/L OFF**
		MIDNIGHT
		LOUDNESS
S.RTV （サウンドレトリバー）	圧縮音声は圧縮処理される際、削除されてしまう部分が発生します。サウンドレトリバー機能を ON にすると、DSP 処理によってその削除されてしまった部分を補い、音の密度感、抑揚感を向上させます。	**OFF**
		ON
デュアルモノラル※a	モノラルの音声チャンネルを 2 つ持つデジタル信号をデュアルモノラル信号といいます。ここではデュアルモノラル信号が入力されたときに再生する音声を選択することができます。 デュアルモノラル信号はあまり多くはありませんが、BS デジタル放送（MPEG-2 AAC）のモノラルの二カ国語放送や音声多重放送で使用されています。 ● CH1 －チャンネル 1 の音声のみを再生します。 ● CH2 －チャンネル 2 の音声のみを再生します。 ● CH1 CH2 －両方のチャンネルの音声をフロントスピーカーから再生します。	**CH1**
		CH2
		CH1 CH2
DRC （ダイナミックレンジコントロール）	ドルビーデジタルや DTS、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラスなどで収録された映画の音声について、ダイナミックレンジの圧縮量を選択します。音量を下げてサラウンドを楽しむときでも、微少な音が聞き取りやすくなります。 ● AUTO －ドルビー TrueHD 信号に対してのみダイナミックレンジを圧縮します。 ● MAX － ダイナミックレンジを最大に圧縮します（大きな音を減少させて、小さな音を増大させます）。 ● MID －ダイナミックレンジを多少圧縮します。 ● OFF －ダイナミックレンジを圧縮しません（音量が大きいときは、OFF にすることをお勧めします）。	**AUTO ※b**
		MAX
		MID
		OFF

設定項目	内容	機能
LFEATT （LFE アッテネーター）	ドルビーデジタルや DTS 音声には、LFE（超低域音声成分）が含まれていることがあります。LFE レベルが大きくて、スピーカーからの音声に歪みが生じるときは、LFE レベルをアッテネート（減衰）します。 ● LFEATT0 －収録されているレベルのまま再生します（通常はこの設定をお勧めします）。 ● LFEATT10 － LFE レベルを 10 dB アッテネート（減衰）します。	**LFEATT0** LFEATT10 LFEATT**
HDMI	HDMI IN に入力された音声を、どのように再生するかを設定します。「THRU」に設定したときは本機からは音が出なくなります。 ● AMP －本機のスピーカーで再生 ● THRU － HDMI OUT と接続したテレビ（フラットテレビなど）で再生	**AMP** THRU
A.DLY （オートディレイ）	HDMI どうしで接続された機器に対する機能で、音声と映像の遅延時間を自動で調整し、映像の動きと音声を自動で合わせます。※c	**OFF** ON
C.WIDTH （センター幅）※d	センターチャンネルの音をフロント左／右スピーカーに振り分けて、音の調和をもたらします。0 はセンタースピーカーからのみの出力で、7 はセンターチャンネルの音声すべてを左右のフロントスピーカーに振り分けます。	0 ～ 7 初期値：**3**
DIMEN. （ディメンション）※d	リスニングポジションから前方の音場を強くするか、後方の音場を強くするかを調整することで広がりのある音場を創り出すことができます。+3 は前方の音場が強くなり、–3 は後方の音場が強くなります。	–3 ～ +3 初期値：**0**
PNRM. （パノラマ）※d	前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドチャンネルにつなげるようなサラウンド効果を加えます。正確な定位よりも雰囲気を楽しむための機能です。	**OFF** ON
C.IMG （センターイメージ）※e	センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーにどの程度振り分けるかを調整します。音色の不一致が緩和され、音楽再生に適した音場を創り出すことができます。0はほぼすべて左右のフロントスピーカーに振り分け、10 は主にセンタースピーカーから再生します。	0 ～ 10 初期値：**3** （NEO:6 MUSIC） 初期値：**10** （NEO:6 CINEMA）

※a デュアルモノラルの設定は、HDD/DVD レコーダーで録画された二カ国語放送などについては、ドルビーデジタル音声か DTS 音声をデュアルモノラルモードで録画されたもののみ有効です。

※b 初期値の **AUTO** はドルビー TrueHD 信号に対してのみ有効となります。ドルビー TrueHD 信号以外のときにダイナミックレンジコントロールを有効にしたいときは MAX か MID を選びます。

※c HDMI で接続されたリップシンク対応のディスプレイにのみ有効です。ON に設定しても音声全体の遅延時間が改善されないときは、OFF に設定して「サウンドディレイ」（20 ページ）を手動で調整してください。

※d **DOLBY PLII MUSIC** モードでステレオ 2 チャンネル音声を入力しているときのみ使用できます。

※e **NEO:6 CINEMA** または **NEO:6 MUSIC** モードでステレオ 2 チャンネル音声を入力しているときのみ使用できます。

他機器のリモコン操作

付属のリモコンを使って、本機以外のパイオニア製品や他社の機器を操作できます。お手持ちの機器のプリセットコードがリモコンに登録されている場合は、該当するコードを呼び出すだけで操作できるようになります。

お知らせ

- プリセットコードを呼び出しても、すべての操作ができなかったり、まったく操作できないこともあります。
- リモコンの設定中に 1 分間何も操作がないと自動的に設定はキャンセルされます。
- 工場出荷時にボタンに割り当てられているプリセットコードは以下の通りです。

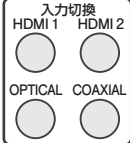
ボタン	プリセットコード
HDMI1	2057（BD）
HDMI2	2056（DVD）
OPTICAL	2055（DVR）
COAXIAL	1000（VIDEO）
テレビコード	0000

テレビコントロールにプリセットコードを呼び出す

- テレビコントロールは、テレビコードボタンにのみ設定することができます。

1 システム を押しながら HDD 1 を約 3 秒間押し続ける

2 テレビコード を押す

3 操作したいテレビにリモコンを向けて、そのテレビに該当するメーカーコード（25 ページ）を入力する

- 正しく設定されると電源オン / オフ信号がリモコンから送信され、操作したいテレビの電源がオンまたはオフに切り換わります。
- メーカーコードが正しく入力されても間違って入力されても、手順 2 へ戻ります。
- テレビの電源がオン / オフしない場合で、操作したいテレビに別のメーカーコードがあるときは、手順 2 から別のコードの入力をやり直してみてください。

4 システム を押して設定を終了する

他機器のプリセットコードを呼び出す

1 システム を押しながら HDD 1 を約 3 秒間押し続ける

2 操作したい機器を接続している入力に対応した入力切換ボタンを押す

入力切換
HDMI 1 HDMI 2
OPTICAL COAXIAL

3 操作したい機器にリモコンを向けて、その機器に該当するメーカーコード（25 ページ）を入力する

- 正しく設定されると電源オン / オフ信号がリモコンから送信され、操作したい機器の電源がオンまたはオフに切り換わります。
- メーカーコードが正しく入力されても間違って入力されても手順 2 へ戻ります。
- 機器の電源がオン / オフしない場合で、その機器に別のメーカーコードがあるときは、手順 2 から別のコードでやり直してみてください。

4 他の機器もプリセットコードを設定したいときは手順 2 ～ 3 を繰り返す

5 システム を押して設定を終了する

リモコンの設定を初期化する

リモコンに設定されたすべての機能をリセットして、工場出荷時に戻します。

1 システム を押しながら 0 を約 3 秒間押し続ける

テレビの操作

本機のリモコンにプリセットコードを入力することで、テレビを操作できるようになります。詳しくは「テレビコントロールにプリセットコードを呼び出す」（22 ページ）をご覧ください。テレビを操作するときは、テレビを接続した入力に対応した入力切換ボタンを押します。

設定項目	内容	機能
（テレビコントロール）⏻ ※a	テレビを接続した入力に対応した入力切換ボタンにプリセットコード設定した機器の電源をオン / オフします。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
（テレビコントロール）**入力**※a	映像入力を切り換えます（機種によってはできないものがあります）。	テレビ
（テレビコントロール）**チャンネル＋ / −**※a	チャンネルを選択します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
（テレビコントロール）**音量 ＋ / −**※a	音量を調整します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
入力機器 ⏻ ※a	テレビや CATV の電源をオン / オフします。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
CH ＋ / −	チャンネルを選択します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
ホームメニュー	番組表を表示します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
戻る	1 つ前の画面、設定に戻ります。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
メニュー	メニュー画面を選択します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
数字ボタン	チャンネルを選択します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
⬆⬇⬅➡/ 決定	メニュー画面操作時に項目の選択、調整をします。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
地上アナログ（シフト＋❚❚）	地上アナログ放送を選択します。	衛星チューナー / テレビ
地上デジタル（シフト＋■）	地上デジタル放送を選択します。	衛星チューナー / テレビ
BS（シフト＋ ▶）	BS デジタル放送を選択します。	衛星チューナー / テレビ
CS（シフト＋ 消音）	110 度 CS デジタル放送を選択します。	衛星チューナー / テレビ
表示	番組情報を表示します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ

※a テレビ以外の機器の入力切換ボタンを押した場合は、テレビコードボタンに設定したテレビの操作ができます。

他機器の操作

本機のリモコンにプリセットコードを入力することで、他機器を操作できるようになります。詳しくは「他機器のプリセットコードを呼び出す」（22 ページ）をご覧ください。他機器を操作するときは、プリセットコードが入力された機器の入力切換ボタンを押します。

設定項目	内容	機能
入力機器 ⏻	電源をオン / オフします。	BD/DVD プレーヤー、DVR、VCR
◀◀ (I◀◀)	再生中のトラック／チャプターの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラック／チャプターの先頭に戻ります。	BD/DVD プレーヤー、DVR
▶▶I	次のトラック／チャプターの先頭に進みます。続けて押すと、さらに次のトラック／チャプターの先頭に進みます。	BD/DVD プレーヤー、DVR
❚❚	再生や録音／録画を一時停止します。	BD/DVD プレーヤー、DVR、VCR
▶	再生を開始します。	BD/DVD プレーヤー、DVR、VCR
▶▶	早送りします。	BD/DVD プレーヤー、DVR、VCR
◀◀	早戻しします。	BD/DVD プレーヤー、DVR、VCR
■	再生を停止します。	BD/DVD プレーヤー、DVR、VCR
数字ボタン	トラック番号を入力して、トラックを選択します。	VCR
	タイトル、チャプター、トラックなどの番号を入力します。	BD/DVD プレーヤー、DVR
+10 ボタン	10 以上のチャプター／トラックを選ぶときに使用します（たとえば、トラック **13** を選ぶときは、**+10** と **3** を押します）。	BD/DVD プレーヤー、DVR
決定（12）	ディスクナビ画面を表示します。	DVR
	決定ボタンとして使用します。	BD/DVD プレーヤー
表示	画面やディスプレイの表示を切り換えます。	BD/DVD プレーヤー、DVR
トップメニュー	トップメニュー画面を表示します。	BD/DVD プレーヤー、DVR
メニュー	ディスクのメニュー画面を表示します。	BD/DVD プレーヤー、DVR
←→↑↓/ 決定	メニュー画面／項目を操作します。	BD/DVD プレーヤー、DVR
ホームメニュー	ホームメニュー画面を表示します。	BD/DVD プレーヤー、DVR
CH + / −	チャンネルを選択します。	DVR、VCR
HDD（シフト + 1）	HDD/DVD/VCR レコーダーで、ハードディスク操作に切り換えます。	HDD/DVD/VCR レコーダー
DVD（シフト + 2）	HDD/DVD/VCR レコーダーで、DVD 操作に切り換えます。	HDD/DVD/VCR レコーダー
VCR（シフト + 3）	HDD/DVD/VCR レコーダーで VCR 操作に切り換えます。	HDD/DVD/VCR レコーダー
地上アナログ（シフト +❚❚）	地上アナログ放送を選択します。	DVR
地上デジタル（シフト +■）	地上デジタル放送を選択します。	DVR
BS（シフト + ▶）	BS デジタル放送を選択します。	DVR
CS（シフト + 消音）	110 度 CS デジタル放送を選択します。	DVR

メーカーコードリスト

以下のメーカーコードを本機のリモコンにプリセットすることで、その機器を本機のリモコンで操作することができるようになります。
メーカーコードにあるメーカーのプリセットコードをすべて呼び出しても、メーカーや機器によっては操作できなかったり、異なるはたらきをすることがあります。

テレビ

メーカー / コード

パイオニア
0000, 0019, 0020, 0042, 0053
アイワ
0013
NEC
0011, 0012
LG
0033
サムスン
0021, 0022, 0023, 0024, 0025, 0026
サンヨー
0008, 0038, 0039
シャープ
0004, 0050, 0055
ソニー
0003, 0037, 0052, 0056
東芝
0005, 0047, 0048, 0049
バイ・デザイン
0014
パナソニック
0001, 0002, 0057
ビクター
0007, 0031, 0032, 0040, 0041
日立
0006, 0017, 0030, 0051, 0054
フィリップス
0018
富士通
0027, 0028, 0029
フナイ
0015, 0016
三菱
0009, 0010, 0035, 0036
その他
0034, 0043, 0044, 0045, 0046

BD/DVD/DVR

メーカー / コード

パイオニア (BD)
2000, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2055, 2056, 2057
アイワ
2002
LG
2046
オンキヨー
2015, 2016, 2017
ケンウッド
2009
サムスン
2026, 2033
サンヨー
2027, 2028, 2029, 2030
シャープ
2010, 2011, 2012, 2050, 2051
ソニー
2031, 2032, 2043, 2044, 2045, 2047, 2048, 2049
デノン
2003, 2004, 2005
東芝
2018, 2019, 2034, 2035, 2037, 2038
パナソニック
2001, 2040, 2041, 2042
ビクター
2006, 2007, 2008, 2052, 2053
日立
2013, 2014
マランツ
2039, 2054
ヤマハ
2036

VIDEO

メーカー / コード

パイオニア
1000, 1049
アイワ
1036, 1037, 1038, 1039
NEC
1044, 1045, 1046, 1047
サンヨー
1032, 1033, 1034, 1035
シャープ
1040, 1041, 1042, 1053
ソニー
1001, 1002, 1003, 1004, 1005, 1006, 1007
東芝
1013, 1014, 1015, 1016, 1017
パナソニック
1008, 1009, 1010, 1011, 1012
ビクター
1025, 1026, 1027, 1028, 1029, 1030, 1031
日立
1018, 1019, 1020, 1043
フィリップス
1050
富士通
1048
フナイ
1043
三菱
1021, 1022, 1023, 1024
その他
1051, 1052

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら下記の項目を確認してください。また、本機と接続している機器（テレビなど）もあわせて確認してください。それでも正常に動作しないときは『保証とアフターサービス』（29 ページ）をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。

症状	改善策
全般	
電源が入らない。	● 電源プラグを抜いて、もう一度差し込んでください。 ● 電源が自動的に切れてしまうようなときは電源プラグを抜いて、パイオニアカスタマーサポートセンターへご連絡ください（裏表紙参照）。
自動的に電源が切れる。	● 1 分間待ってから電源を入れてみてください。それでも同じ症状が繰り返されるときは電源プラグを抜いて、パイオニアカスタマーサポートセンターへご連絡ください（裏表紙参照）。
入力切換を合わせても音声が出ない。	● 機器が正しく接続されているか確認してください。詳しくは「本機を接続する」（14 ページ）をご覧ください。 ● 消音ボタンを押して、ミュートを解除してください。
入力切換を合わせても映像が出ない。	● 機器が正しく接続されているか確認してください。詳しくは「本機を接続する」（14 ページ）をご覧ください。 ● 入力切換ボタンを押して、正しい入力に合わせてください。
サブウーファーの音声がとぎれる。	● 近くに同じ周波数帯（2.4 GHz）を利用する無線通信機器である、コードレスフォン、Bluetooth、無線 LAN、また電子レンジなどの機器が作動している場合は、設置場所を変えてみてください。 ● 本機の使用する電波は、高い周波数を使用しているため、光と同じように直進、反射、屈折、回折、干渉などの性質を持っています。そのため、場所により電波の強弱が起こり、音声が止まったりすることがあります。設置場所を変えてみてください。 ● 本体部とサブウーファーの距離が離れ過ぎている場合は、電波の届く範囲でご使用ください。 ● 電気雑音の発生しやすいところで使用している場合は、サブウーファーの設置場所を変えてみてください。
サブウーファーの音声が出ない。	● 再生しているドルビーデジタルや DTS 信号の中に低音域の LFE チャンネルが含まれていない。 ●「LFEATT（LFE アッテネーター）」（21 ページ）を LFEATT0 または LFEATT10 にしてください。 ● 障害物と反射物の影響で電波状態の良い位置と悪い位置があります。本体部またはサブウーファーの位置を少し動かしてみてください。 ● 本体部とサブウーファーは対になっており、お互いに識別しています。別に購入された本体部とサブウーファーでは通信できない仕組みになっています。 ● 低音が少ない音声が続いた場合、サブウーファーから音が出ない場合があります。 ● 本体部とサブウーファーのペアリングを行ってください（11 ページ）。
DTS で収録されたソフトを再生しても音が出ない（または雑音が出る）。	● 再生機器のデジタル出力レベルを、最大から中間くらいにしてください。
リモコンで操作できない。	● 電池を交換してください（4 ページ）。 ● フロントパネルのリモコン受光部から 7 m、左右 30°の範囲で操作してください（6 ページ）。 ● 障害物を取り除くか、別の場所に移動させてください。 ● リモコン信号受光部に強い光が当たらないようにしてください。

症状	改善策
ディスプレイの表示が暗い、または表示されない。	• リモコンの**ディマー**ボタンを押して、表示部の明るさを選択してください。
何らかの操作のあと、ディスプレイ表示が点滅する。	• 操作禁止を意味します。入力信号やリスニングモードによっては選択できない機能があります。
HDMI	
映像と音声の両方が出ない。	• ソース機器の仕様によっては本機を通してのHDMI接続ができない場合があります。ソース機器の仕様を確認し、非対応のときは映像信号は、ソース機器とテレビを直接アナログのビデオコードで接続してください。 • 本機はHDCPに対応しています。ご使用の機器がHDCP対応かどうかをご確認ください。HDCP非対応のときは映像信号は、ソース機器とテレビを直接アナログのビデオコードで接続してください。
映像が出ない。	• ソース機器の設定によっては映像が表示されないビデオフォーマットが出力されることがあります。ソース機器の設定を変更するか、映像信号はソース機器とテレビをアナログのビデオコードで接続してください。 • ソース機器の映像が影響している可能性があります。ソース機器の解像度設定やDeep Colorの設定などを調整してください。 • 映像信号がDeep Colorのとき、HDMIケーブルがDeep Colorに対応していないと映像が出ません。High Speed HDMI™ケーブルを使ってください。
音声が出ない、またはとぎれる。	• ソース機器の設定が間違っている可能性があります。ソース機器を正しく設定してください。 • DVI機器と接続しているときは、音声が出ません。別途音声の接続を行ってください。 • オーディオ調整機能のHDMI設定が「THRU」になっています。「AMP」に設定してください。（21ページ）

HDMI接続に関するご注意

本機を経由してソース機器(DVDプレーヤーやビデオデッキ、セットトップボックスなど)とTV(モニター)をHDMIケーブルを使って接続すると、映像や音声が出力されないことがあります(ソース機器の仕様により、本機を経由してTVに映像や音声を出力できないことがあります)。 このようなときは、接続しているソース機器のメーカーにお問い合わせください。

お知らせ

- HDMI入力端子が1系統のTVからは、直接接続したソース機器の映像のみ出力されます。
- ソース機器によっては、2チャンネル音声しか出力されないことがあります(これは、ソース機器がTVの音声チャンネル数に合わせるためです)。
- ソース機器を切り換えるときは、本機とTVの入力を両方切り換えてください。
- HDMI端子に入力される映像をTVで見るときは、TVの入力をHDMIに切り換えます。このときTVの音量は最小に調整して、本機のスピーカーとTVから同時に音が出ないようにください。

本機を初期化する

以下の手順で、本機のすべての設定を工場出荷時の状態に初期化します。初期化の操作はフロントパネルで行います。

1 電源をオンにする

2 本体の STEREO/A.L.C. ボタンを押しながらリモコンの HDMI 1ボタンを約 2 秒間押し続ける

フロントパネル表示部に INITIAL と表示されてから、電源がスタンバイになります。

3 本体部とサブウーファー部の電源コードをコンセントから抜いて、10 秒以上待つ

本機が工場出荷時の状態に初期化されます。

工場出荷時の設定一覧

設定項目	初期値	参照ページ
S.DELAY（サウンドディレイ）	0.0 フレーム	20
MIDNIGHT（ミッドナイト）	OFF	
LOUDNESS（ラウドネス）		
S.RTV（サウンドレトリバー）	OFF	
デュアルモノラル	CH1	
DRC（ダイナミックレンジコントロール）	AUTO	
LFEATT（LFE アッテネーター）	0 dB	21
HDMI	AMP	
A.DLY（オートディレイ）	OFF	
C.WIDTH（センター幅）	3	
DIMEN.（ディメンション）	0	
PNRM.（パノラマ）	OFF	
C.IMG（センターイメージ）	3（NEO:6 MUSIC）/ 10（NEO:6 CINEMA）	
その他		
入力ファンクション	HDMI 1	17
リスニングモード	AUTO SURROUND	18
ディスプレイの明るさ	一番明るい	6

保証とアフターサービス

保証書（別添）について

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保存してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

補修用性能部品の保有期間

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い求めの販売店へご依頼ください。ご転居されたりご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、修理受付センターにご相談ください。

所在地、電話番号は裏表紙の「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に 26 ～ 27 ページの「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。それでも正常に動作しないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い求めの販売店または裏表紙に記載の修理受付センターにご依頼ください。

ご連絡いただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：フロントサラウンドシステム
- 型番：HTP-SB300
- お買い上げ日
- 故障の状況（できるだけ具体的に）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物、公園など）

保証期間中は

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

お願い

修理のために本機をお持ち込みいただく際は、部分的な故障と思われる場合でもシステム全体での動作確認が必要となるため、本体部とサブウーファー部の両方をお持ち込み願います。

愛情点検

長年ご使用のAV機器の点検を!

このような症状はありませんか	・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。 ・電源コードにさけめやひび割れがある。 ・電源が入ったり切れたりする。 ・本体から異常な音、熱、臭いがする。		ご使用中止	故障や事故防止のため、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

K026_A_Ja

サービス拠点のご案内

サービス拠点への電話は、修理受付センターでお受けします（沖縄県の方は沖縄サービス認定店）。また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込みをご希望のお客様は修理受付センターにご確認ください。

●北海道地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆北海道サービスセンター	FAX 011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北2条西20-1-3　クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX 0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町1条1丁目438-89
帯広サービス認定店	FAX 0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西5条南28丁目1-1
函館サービス認定店	FAX 0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町2-18-7

●東北地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆東北サービスセンター	FAX 022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈6-10-26
山形サービス認定店	FAX 023-615-1627	〒990-0023	山形市松波1-8-17
郡山サービス認定店	FAX 024-991-7466	〒963-8861	郡山市鶴見坦1-9-25　クレールアヴェニュー伊藤第2ビル1F D号
盛岡サービス認定店	FAX 019-656-7648	〒020-0051	盛岡市下太田下川原153-1
青森サービス認定店	FAX 017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田2-16-10
八戸サービス認定店	FAX 0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野3-16-8
秋田サービス認定店	FAX 018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目345-1

●東京都内

受付　月～土　9:30～18:00（日・祝・弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
世田谷サービスステーション	FAX 03-3419-4234	〒155-0032	世田谷区代沢4-25-9
北東京サービスステーション	FAX 03-3944-7800	〒170-0002	豊島区巣鴨1-9-4　第三久保ビル1F
多摩サービスステーション	FAX 042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町4-18-1　エクセル立川1F

●関東・甲信越地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆東関東サービスセンター	FAX 043-207-2555	〒263-0014	千葉市稲毛区作草部町1369-1　椎の実ハイツ1F
松戸サービス認定店	FAX 047-340-5052	〒270-0021	松戸市小金原4-9-23
水戸サービス認定店	FAX 029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町307-4
つくばサービス認定店	FAX 0298-58-1369	〒305-0045	つくば市梅園2-2-6
☆北関東サービスセンター	FAX 048-651-8030	〒331-0812	さいたま市北区宮原町1-310-1
川越サービス認定店	FAX 049-233-6581	〒350-0804	川越市下広谷1128-11
宇都宮サービス認定店	FAX 028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町3373-21
群馬サービス認定店	FAX 0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町1191-17　パサージュ808伊勢崎101号
新潟サービス認定店	FAX 025-374-5756	〒950-0982	新潟市中央区堀之内南1-20-11
佐渡サービス指定店　横山電機商会	FAX 0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種1158-1
☆南関東サービスセンター	FAX 045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1　ベルデユール茅ヶ崎
横浜サービス認定店	FAX 045-348-8661	〒240-0043	横浜市保土ヶ谷区坂本町250
神奈川西サービス認定店	FAX 046-231-1209	〒243-0422	海老名市中新田4-10-53　中山ビル1F
三宅島サービス指定店　勝見電機	FAX 04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービス認定店	FAX 0263-48-0575	〒390-0852	松本市大字島立180-5　パイオニア松本拠点1F
長野サービス認定店	FAX 026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所1-24
甲府サービス認定店	FAX 055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田4-9-14

●中部地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆中部サービスセンター	FAX 052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切2-8-18
岡崎サービス認定店	FAX 0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1　大和ビレッジB-1
津サービス認定店	FAX 059-213-6712	〒514-0821	津市垂水522-5
岐阜サービス認定店	FAX 058-274-5256	〒500-8356	岐阜市六条江東1-1-3
静岡サービス認定店	FAX 054-236-4063	〒422-8034	静岡市駿河区高松1-17-17
沼津サービス認定店	FAX 055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢12-7
浜松サービス認定店	FAX 053-422-1401	〒430-0912	浜松市中区茄子町355-1
金沢サービス認定店	FAX 076-240-0550	〒920-0362	金沢市古府3-60-1　K2ビル1F
富山サービス認定店	FAX 076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町1-7-1
福井サービス認定店	FAX 0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺3-5-9

●関西地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点		番号	〒	住所
☆関西サービスセンター	FAX	06-6310-9120	〒564-0052	吹田市広芝町5-8
神戸サービス認定店	FAX	078-265-0832	〒651-0093	神戸市中央区二宮町1丁目10-1　ローレル三宮ノースアベニュー1F
姫路サービス認定店	FAX	0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土1-126
和歌山サービス認定店	FAX	0734-46-3026	〒641-0014	和歌山市毛見1126-4
京都サービス認定店	FAX	075-352-2588	〒600-8322	京都市下京区西洞院通五条東南角小柳町513-2　五条久保田ビル1F
奈良サービス認定店	FAX	0742-36-8713	〒630-8132	奈良市大森西町21-26
福知山サービス認定店	FAX	0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション

●中国・四国地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点		番号	〒	住所
☆中四国サービスセンター	FAX	082-248-9939	〒730-0041	広島市中区小町2-30　第二有楽ビル1F
岡山サービス認定店	FAX	086-244-8748	〒700-0975	岡山市北区今8-15-21
松江サービス認定店	FAX	0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40　（有）テクピット内
福山サービス認定店	FAX	0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
鳥取サービス認定店	FAX	0857-28-8011	〒680-0934	鳥取市徳尾422-2
徳山サービス認定店	FAX	0834-33-5759	〒745-0006	周南市花畠町3-11　森広事務所1F
高松サービスステーション	FAX	087-861-4841	〒760-0078	高松市今里町1-16-1
徳島サービス認定店	FAX	088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下1階103号
高知サービス認定店	FAX	088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル1F
松山サービス認定店	FAX	089-911-5608	〒791-8013	松山市山越5-12-8

●九州地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点		番号	〒	住所
☆九州サービスセンター	FAX	092-412-7460	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南2-12-3
北九州サービス認定店	FAX	093-941-8354	〒802-0044	北九州市小倉北区熊本1丁目9-4　植田ビル1F
博多サービス認定店	FAX	092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
西九州サービス認定店	FAX	0952-20-1991	〒840-0201	佐賀市大和町大字尼寺2688-1
長崎サービス認定店	FAX	095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX	096-331-3323	〒862-0918	熊本市花立5丁目14-17
大分サービス認定店	FAX	097-551-2049	〒870-0921	大分市萩原3-23-15　日商ビル101
宮崎サービス認定店	FAX	0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1
鹿児島サービス認定店	FAX	099-201-3803	〒890-0046	鹿児島市西田3-8-24　サニーサイド21 1F

●沖縄県

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）

拠点		番号	〒	住所
沖縄サービス認定店	TEL	098-987-1120	〒902-0073	那覇市上間413　琉電アパート1-5
	FAX	098-987-1121		

平成21年10月現在　　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

おもな仕様

本体部

アンプ部	実用最大出力（非同期駆動、JEITA）	フロント（L/R）	50 W/ch（1 kHz、10 %、6 Ω）
		センター（C）	50 W（1 kHz、10 %、6 Ω）
入出力端子	HDMI	入力	19 ピン × 2
		出力	19 ピン（5 V、55 mA）× 1
	音声入力		光デジタル（角型光ジャック）× 1 同軸デジタル（RCA 端子）× 1
スピーカー部	フロント	型式	密閉式 防磁設計（JEITA）
		使用スピーカー	7.7 cm（コーン型）
		インピーダンス	6 Ω
		再生周波数帯域	200 Hz ～ 20 kHz
		最大入力	100 W（JEITA）
	センター	型式	密閉式 防磁設計（JEITA）
		使用スピーカー	7.7 cm（コーン型）× 2
		インピーダンス	12 Ω
		再生周波数帯域	200 Hz ～ 20 kHz
		最大入力	100 W（JEITA）
電源部	電源電圧		AC 100 V、50 Hz/60 Hz
	消費電力		40 W
	スタンバイ消費電力		1 W
外形寸法			900 mm（幅）× 108 mm（高さ）× 95 mm（奥行）
質量			2.8 kg
許容動作温度			＋ 5 ℃ ～ ＋ 35 ℃
許容動作湿度			5 % ～ 85 %（結露のないこと）

サブウーファー部

型式		バスレフ式
アンプ部 実用最大出力（JEITA）		100 W（100 Hz、10 %、4 Ω）
スピーカー部	使用スピーカー	16 cm（コーン型）
	インピーダンス	4 Ω
	再生周波数帯域	40 Hz ～ 1000 Hz
	最大入力	100 W（JEITA）
電源部	電源電圧	AC 100 V、50 Hz/60 Hz
	消費電力	25 W
	スタンバイ消費電力	1 W
外形寸法		411 mm（幅）× 181 mm（高さ）× 215 mm（奥行）
質量		4.3 kg
許容動作温度		＋5 ℃ ～＋35 ℃
許容動作湿度		5 % ～ 85 %（結露のないこと）

お知らせ

- 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ご注意

- 本機は一般家庭用機器として作られたものです。一般家庭用以外（たとえば飲食店等での営業用の長時間使用、車両、船舶への搭載使用）で使用し、故障した場合は、保証期間内でも有償修理を承ります。

付録

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の方々への危害や財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容が描かれています。

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行動を強制したり指示したりする内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告

異常時の処置

・万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。

・万一、内部に水や異物等が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

・万一、本機を落としたり、カバーを破損した場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置

・電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

・電源コードの上に重いものを載せたり、コードが本機の下敷きになったりしないようにしてください。コードの上を敷物などで覆うと、気づかずに重いものを載せてしまうことがあります。重いものを載せるとコードが傷ついて、火災・感電の原因となります。

・放熱をよくするため、他の機器や壁等から間隔をとり、ラックに入れる場合はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
→あおむけや横倒し、逆さまにする。
→押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
→じゅうたんやふとんの上に置く。
→テーブルクロスなどをかける。

・付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。
また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

・指定以外の AC アダプターは使用しないでください。火災・感電の原因となります。

・付属の AC アダプターは本機専用です。絶対に他の機器に使用しないでください。火災・感電の原因となります。

・本機の上に火がついたろうそくなどの裸火を置かないでください。火災の原因となります。

使用環境

・この機器に水が入ったり、ぬれたりしないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

・風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 表示された電源電圧（交流 100 ボルト 50 Hz/60 Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- この機器を使用できるのは日本国内のみです。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法

- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災･感電の原因となります。

- ぬれた手で（電源）プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

- 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、販売店に交換をご依頼ください。

- 雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠注意

設置

- 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

- 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

- ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

- 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- テレビ､オーディオ機器､スピーカー等に機器を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

- 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

- 本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)

- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

- 本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは２人以上で行ってください。

- 窓を閉め切った自動車の中や直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、壊れたりしてけがの原因になることがあります。

- 旅行などで長期間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示 (プラス (＋) マイナス (－) の向き) に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液が漏れて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また万一、漏れた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

- 電池は加熱したり分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検

- 5 年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

- お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上のご注意

設置する場所

- 組み合わせて使用するテレビやステレオシステムの近くの安定した場所を選んでください。
- テレビやカラーモニターの近くに本機を設置しないでください。また、カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器とは離して設置してください。

注 意

本機を設置する場合には、壁から10 cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときには、本機の天面から10 cm以上、背面から10 cm以上、側面から10 cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

次のような場所は避けてください

・直射日光のあたる所
・湿気の多い所や風通しの悪い所
・極端に暑い所や寒い所
・振動のある所
・ホコリの多い所
・油煙、蒸気、熱があたる所（台所など）

本機の使用環境温度範囲は5 ℃~35 ℃、使用環境湿度は85 %以下(通風孔が妨げられていないこと)です。
風通しの悪い所や湿度が高すぎる場所、直射日光(または人工の強い光)の当たる場所に設置しないでください。
D3-4-2-1-7c_Ja

上に物をのせない

本機の上に物をのせないでください。

熱を受けないように

本機をアンプなど熱を発生する機器の近くに設置しないでください。

本機を使わないときは電源を切る

テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。ラジオの音声の場合も同様にノイズが入ることがあります。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

製品のお手入れについて

- 磨き布や乾いた布で、表面のほこりや汚れを拭き取ってください。
- 表面が汚れているときは、中性洗剤を水で５～６倍に薄めたものに柔らかい布を浸してよく絞って、汚れを拭き取り、乾燥した布でから拭きします。家具用のワックスや洗剤は使用しないでください。
- 製品の表面がさびることがありますので、シンナー、ベンジン、殺虫剤などを製品にかけたり、製品の近くで使用しないでください。

ワイヤレススピーカー使用上のご注意

電波に関するご注意

- 本機は盗聴防止機能を搭載しておりますが、傍受（無線通信内容を第三者が別の受信機で故意または偶然に受信すること）にご注意ください。本機は電波を使用している関係上、第三者が故意に傍受するケースも考えられます。機密を要する重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。
- 本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として、技術基準適合証明を受けています。したがって、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本機は日本国内のみで使用できます。

本機は、2.4 GHz の周波数帯の電波を利用しています。この周波数の電波は、下記 1 に示すようにいろいろな機器が使用しています。また、お客様に存在がわかりにくい機器として下記 2 に示すような機器もあります。

1　2.4 GHz を使用する主な機器の例

- コードレスフォン
- コードレスファクシミリ
- 電子レンジ
- 無線ルーター
- ワイヤレス AV 機器(当社ワイヤレススピーカーを含む)
- ゲーム機のワイヤレスコントローラー
- マイクロ波治療機器類
- Bluetooth 対応機器

2　存在がわかりにくい 2.4 GHz を使用する主な機器の例

- 万引き防止システム
- アマチュア無線局
- 工場や倉庫などの物流管理システム
- 鉄道車両や緊急車両の識別システム

これらの機器と本システムを同時に使用すると、電波の干渉により、音がとぎれて雑音のように聞こえたり、音が出なくなることがあります。このようなときは、本機のワイヤレスインジケーターが赤く点灯しますが、電波干渉によるもので本機の故障ではありません。

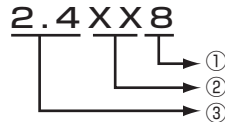
受信状況の改善方法としては以下の方法があります。

- 電波を発生している相手機器の電源を切る
- 干渉している機器の距離を離して設置する

次の場所では本機を使用しないでください。ノイズが出たり、送信 / 受信ができなくなる場合があります。

- 同じ周波数帯（2.4 GHz）を利用する無線通信機器である Bluetooth、無線 LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。（環境により電波が届かない場合があります）
- ラジオから離してお使いください。（ノイズが出る場合があります）
- テレビにノイズが出た場合、本機がテレビ、ビデオ、BS チューナー、CS チューナーなどのアンテナ入力端子に影響を及ぼしている可能性があります。本機をアンテナ入力端子から遠ざけて設置してください。

本機は、技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。

- 分解 / 改造すること。
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

①「8」想定される与干渉距離(約80 m)を表します
②「XX」変調方式(その他の方式)を表します
③「2.4」GHz帯を使用する無線設備を表します

- 本機の使用する周波数帯域（2.4 GHz）では、無線通信機器である Bluetooth、無線 LAN、また電子レンジなどの機器の他、工場、製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する）および、特定小電力無線局が同じように利用して運用されています。

本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して電波障害の事例が発生した場合、すみやかにその場での本機の使用を中断してください。

使用範囲について

- ご家庭内での使用に限ります(通信の環境により伝送距離が短くなることがあります)。

次のような場合、電波状態が悪くなったり電波が届かなくなることが原因で、音声がとぎれたり停止したりします。

- 鉄筋コンクリートや金属の使われている壁や床を通して使用する場合。
- 大型の金属製家具の近くなど。
- 人混みの中や、建物障害物の近くなど。
- 同じ周波数帯(2.4 GHz)を利用する無線通信機器であるBluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。
- 集合住宅(アパート・マンションなど)にお住まいで、お隣りで使用している電子レンジ設置場所が本機に近い場合。なお、電子レンジは、使用していなければ電波干渉はおこりません。
- 複数台の当社のワイヤレススピーカーを同じ場所、同じチャンネルで使用した場合。

電波の反射について

- ワイヤレスサブウーファーに届く電波には、本体部から直接届く電波(直接波)と、壁や家具、建物などに反射してさまざまな方向から届く電波(反射波)があります。これにより、障害物と反射物とのさまざまな反射波が発生し、電波状態の良い位置と悪い位置が生じ、音声がうまく受信できなくなることがあります。このようなときは、ワイヤレスサブウーファーの場所を少し動かしてみてください。本体部とワイヤレスサブウーファーの間を人間が横切ったり、近づいたりすることによっても、反射波の影響で音声がとぎれたりすることがあります。

お知らせ

- お客さま、または第三者使用によるこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

- 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しないでください。電子機器に誤動作するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。

ご注意いただきたい電子機器の例

- 補聴器、ペースメーカー、その他医療用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他自動制御機器など。
  ペースメーカー、その他医療用電気機器をご使用される方は、該当の各医療用電気機器メーカーもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。
- 航空機器や病院など、使用を禁止された場所では使用しないでください。電子機器や医療用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関の指示に従ってください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要さない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに電波の発射を停止したうえ、ご相談窓口(裏表紙)にご連絡いただき、混信回避のための処置など(たとえば、パーティションの設置など)についてご相談してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、ご相談窓口(裏表紙)へお問い合わせください。

技術資料

デジタル音声フォーマットについて

DVD やブルーレイディスクソフトのパッケージには以下のような表示がされていることがあります。1 枚のディスクに複数の音声が収録されている場合が多く、どの音声を聴くのか選択することができます。（音声の選択方法はお手持ちのプレーヤーやディスクによって異なります。）

1. 英　語（5.1ch サラウンド）
2. 日本語（ドルビーサラウンド）
3. 英　語（DTS 5.1ch サラウンド）

収録音声数　　録音方式　　音声記録方式

ドルビーデジタルは DVD の標準音声フォーマットであるため、単に「5.1ch サラウンド」と記載されている場合は、「ドルビーデジタル（5.1ch）」であることを示します。

デコードとは
デジタル信号処理回路などにより、圧縮記録されたデジタル信号を、もとの信号に変換させる技術です。また、2ch の音源をマルチ ch 化させる演算技術をマトリックス・デコードと言い、5.1ch 信号を 6.1ch に伸長させる技術もデコードと呼ぶことがあります。

ドルビー

DOLBY TRUEHD

高音質

入力信号	サラウンドの名称	デコード方式	特徴
HD コンテンツ	＊ Dolby TrueHD ＊ Dolby Digital Plus	ディスクリート	高精細次世代音声技術。HDMI ケーブルで伝送可能。特に Dolby TrueHD は、ロスレス符号化技術により最高音質を実現。
5.1ch（サラウンドバック ch フラグ付）	Dolby Digital Surround EX	ディスクリート＋マトリックス	サラウンドバック ch を使用して、Dolby Digital よりも臨場感を高めた方式
5.1ch ディスクリート	Dolby Digital	ディスクリート	DVD 以降の代表的フォーマット
一般的な 2ch ドルビーサラウンド	(Dolby Surround) Dolby ProLogic (IIx)	マトリックス	すべてのステレオ信号に対応する万能なサラウンド技術

＊これらの音声は 8 チャンネル以上のチャンネル数をサポートしていますが、現在ブルーレイディスクおよび HD DVD のそれぞれの規格では、最大音声チャンネル数が 8 チャンネルに制限されています。

詳細な情報はドルビーラボラトリーズのホームページをご覧ください。
http://www.dolby.co.jp/

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、ダブル D 記号及び AAC ロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

プロロジック IIx 製品は、プロロジック IIx の持つさまざまな機能を、選択して搭載することが可能です。プロロジック IIx 搭載、とキャッチフレーズされた商品でも、必ずしもまったく同じ機能を持っているとは限らないことにご注意ください。

DTS

高音質 ↑

入力信号	サラウンドの名称	デコード方式	特徴
5.1ch (サラウンドバック ch フラグ付)	· DTS-ES (Matrix/Discrete)	ディスクリート + マトリックス	サラウンドバック ch を使用して、臨場感を高めた方式
5.1 ch ディスクリート	· DTS (Surround) · DTS 96/24	ディスクリート	DVD 以降の代表的フォーマット
一般的な 2 ch DTS サラウンド	· Neo:6	マトリックス	すべてのステレオ信号に対応する万能なサラウンド技術

詳細な情報は DTS のホームページをご覧ください。
http://www.dtsjapan.co.jp/

米国特許 5451942 号、5956674 号、5974380 号、5978762 号、6226616 号、6487535 号、7003467 号、7212872 号、または、米国およびその他の国での登録済み特許、または特許申請中の実施権に基づき製造されています。DTS、DTS Digital Surround、ES および NEO：6 は、DTS 社の登録商標であり、また、DTS のロゴ、記号および DTS 96/24 は DTS 社の商標です。© 1996-2008 DTS 社 不許複製。

MPEG-2 AAC

MPEG-2 オーディオの標準方式の 1 つで、BS デジタルや地上デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。高圧縮率ながら高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。

■米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5,297,236	5,481,614	5,490,170
5,848,391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

HDMI について

HDMI(High-Definition Multimedia Interface)とは1本のケーブルで映像と音声を受信するデジタル伝送規格です。ディスプレイ接続技術のDVI(Digital Visual Interface)を家庭向けのオーディオ機器用にアレンジしたものであり、高い帯域幅のデジタル内容保護(HDCP)を実現した次世代テレビ向けのインターフェース規格です。
本機では、HDMI対応機器とHDMI対応のフラットテレビなどを接続することで、圧縮されていないデジタル映像と音声(ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、またはリニアPCM)を1本のケーブルで伝送できます。ドルビー TrueHDなどのロスレスデジタル音声フォーマットにも対応しています。
本機はHDMI機器との接続を目的として設計されています。DVI機器に接続した場合、DVI機器によっては正常に動作しない場合があります。
本機は高画質規格のDeep Color出力やx.v.Colorの伝送も可能です。

入力端子の対応フォーマット

各入力端子で対応している音声フォーマットは以下のとおりです。

入力端子	対応音声フォーマット
デジタル(光/同軸)	Dolby Digital、DTS、MPEG-2 AAC、PCM（サンプリング周波数：32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz）
HDMI	Dolby Digital、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS、DTS-EXPRESS、MPEG-2 AAC、2ch から最大8ch までのリニア PCM デジタル信号（サンプリング周波数：32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz)、ビデオ CD、スーパービデオ CD、DVD オーディオ

<各窓口へのお問い合わせの時のご注意>
「0120」で始まる フリーコールおよび フリーコールは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■家庭用オーディオ/ビジュアル商品　0120−944−222　一般電話　03−5496−2986
■ファックス　03−3490−5718
■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81028（ゴーパイオニア）　一般電話　03−5496−2023
■ファックス　0120−5−81029
■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/repair.html
※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービス認定店（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話　098−987−1120
■ファックス　098−987−1121

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81095　一般電話　0538−43−1161
■ファックス　0120−5−81096

平成21年10月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.034

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<8952-SB300-037-0>